

# リーハイのけいこく

だい2しょう



**キ**リストがお生まれになる600年前<sup>ねんまえ</sup>、エルサレムのほとんど<sup>ほとん</sup>の人びとは、わるいことをしていました。神はよげんしゃをつかわして、くいあらためるよう<sup>よう</sup>にめいじられましたが、人びとはあらためようとはしませんでした。(1ニーファイ1：4)



リーハイはよげんしゃでした。リーハイは人びとがくいあらためるよう<sup>よう</sup>にいのりました。いのっていると、火のはしらがあらわれ、神がリーハイに多くのことを語り、お見せになりました。(1ニーファイ1：5-6)



リーハイは家に帰り、じげんを見ました。神が大ぜいのてんしにとりかこまれているのを見たのです。てんしたちは、神をほめたたえて歌っていました。(1ニーファイ1：7-8)



そのじげんの中で、リーハイは1さつ<sup>な</sup>の本<sup>ほん</sup>をあたえられました。その本には、しょうらいおこることが書かれていました。リーハイは、人びとのわるい行いのためにエルサレムがほろぼされることを知りました。(1ニーファイ1：11-13)



リーハイは人びとに、エルサレムがほろぼされることを知らせました。また、イエスが来られることについても話しました。ところが、人びとはリーハイにはらを立て、ころそうとしました。しかし、主はリーハイをおまもりになりました。(1ニーファイ1：18-20)